

Ⅱ 学校経営の基本方針

1 学校教育目標 『しなやかに』

「柔軟でありながら、まっすぐに伸びていく」

『しなやかに』とは、風雪や嵐にも負けず、柔軟でありながら、まっすぐに伸びていく竹の姿を、子どもたちの成長の姿に重ねた言葉です。どのような困難にあっても、しなやかに、そして着実に自分らしく成長していく子どもたちを育てたいという願いが込められています。

2 学校経営の重点と方策

(1) 一人一人の自己実現に向けた教育課程の編成

- ①教育計画の確実な実行により、児童生徒一人一人に社会参加に必要な資質・能力を育成する。
- ②学校評価の結果を生かし、教育課程の質の向上を図る。
- ③児童生徒一人一人の生活実態に即して、目標や育成を目指す資質・能力を明確にし、指導内容や支援の適正化を進める。

(2) 関係機関との連携とネットワークの構築

- ①児童生徒の多面的な支援のために、学校、大学、福祉、医療、行政等と密接に連携する。
- ②児童生徒に応じた社会参加の実現に向けて、地区のブロックマネージャーや特別支援学校の進路指導主事との連携を強化する。
- ③適正な就学支援の推進のために、幼保、小・中学校、教育委員会との連携を強化する。

(3) 開かれた学校づくりの推進

- ①教育活動の充実に向けて、地域の人的・物的資源や自然などを積極的に活用する。
- ②教育活動や特別支援教育に関する情報の発信方法を工夫し、積極的に公開する。
- ③地域における特別支援教育センター的役割の充実を目指し、教育相談会や研修会を開催したり、巡回相談を実施したりする。

(4) 安全・安心な学校の構築

- ①安心して過ごせる環境づくりや、良好な人間関係の中で学べるように、集団づくりや関わり合いの活動を工夫する。
- ②感染症への日常的な予防と拡大防止の取組を行う。
- ③医療的ケアガイドラインに基づき、適切な医療的ケア環境と支援体制の整備を進める。

- ④校地・校舎・施設・設備の定期的な点検・整備を行う。
- ⑤最新の災害対策情報を活用し、災害への備えと対応を徹底する。
- ⑥様々な緊急事態を想定した訓練を実施するとともに、緊急時の連絡手段を複数確保し、使用方法を周知する。

(5) 教職員の専門性の向上

- ①あらゆる取り組みにおいて目的と手段を明確にし、常に「何のために取り組むのか」を意識しながら目標の達成を目指す。
- ②授業実践において指導と評価の一体化を図り、授業改善を進める。
- ③個々の研修計画に基づき、WEB 研修等の外部研修にも積極的に参加し、最新の指導法・支援法や児童生徒理解の方法を学ぶ。
- ④障害特性に応じた適切な対応や、在学中・卒業後の福祉サービスや進路支援に関する知識を深め、支援の専門性を高める。
- ⑤児童生徒が自ら考え判断する力や、自分の思い・考えを多様な方法で表現・発信する力を育成するために、ICT 教育を推進する。
- ⑥学級・学年・学部・分掌を超えて連携し、課題解決に向けたチーム力の向上を図る。
- ⑦竹俣本校との交流・共同研修を積極的に推進する。

3 いじみの分校教職員としての基本姿勢

- ◎傾聴：丁寧に耳を傾け、親身に考え、多角的に捉え、迅速に対応する。
- ◎感謝：肯定的な視点を持ち、相手の良さを見出し、そこから学ぶ姿勢を大切にする。
- ◎尊重：相手の人格や立場を尊重し、敬意と誠意をもって接する。
- ◎連携：教育者として伝えるべきことをしっかりと伝え、対等な立場で連携する。
- ◎健康：自身の健康管理に努め、笑顔で日々の教育活動に臨む。

- 過去の取組や慣例にとらわれず、柔軟な発想で教育活動を展開する。
- 教職員が互いに助け合い、一丸となって「いじみの分校の教育の在り方」の創造を目指す。